

2-B-9.

私有31フィートコンテナの往復運行

＜松下電器産業(株)＞

1. 概 要

シフトした輸送機関	トラック ⇒ 鉄道
輸送ルート	滋賀県草津市 ←→ 栃木県宇都宮市(往復運行)
主な対象貨物	家電商品(冷蔵庫・エアコン・掃除機・テレビ)
導入時期	2003年1月
月間取扱貨物量	331トン/月
荷姿	段ボール箱
出荷頻度	ほぼ毎日

2. 背景(実施理由、狙い、導入の経緯)

1) 実施理由

- ・ 環境問題への対応
- ・ 物流システム全体の見直し

2) 狙い

- ・ 物流が与える地球および地域環境への影響を考慮し、環境に配慮した物流体系の構築と輸送の実施に努める。
- ・ 特に鉄道輸送は、CO₂削減(環境負荷低減)に効果が大きく、かつ大型ウィングコンテナの出現で輸送効率も従来に比べ向上した為、大型コンテナを中心に5tコンテナに至る鉄道輸送のシフト化を推進。

3) 導入の経緯

- ・ 各事業場ではそれぞれが独自で JR コンテナ活用によるモーダルシフトを推進しているが、グループをあげて環境負荷低減を加速するため、松下ロジスティクス㈱(物流子会社)を中心に大型専用コンテナ4台を導入し往復運行を開始した。

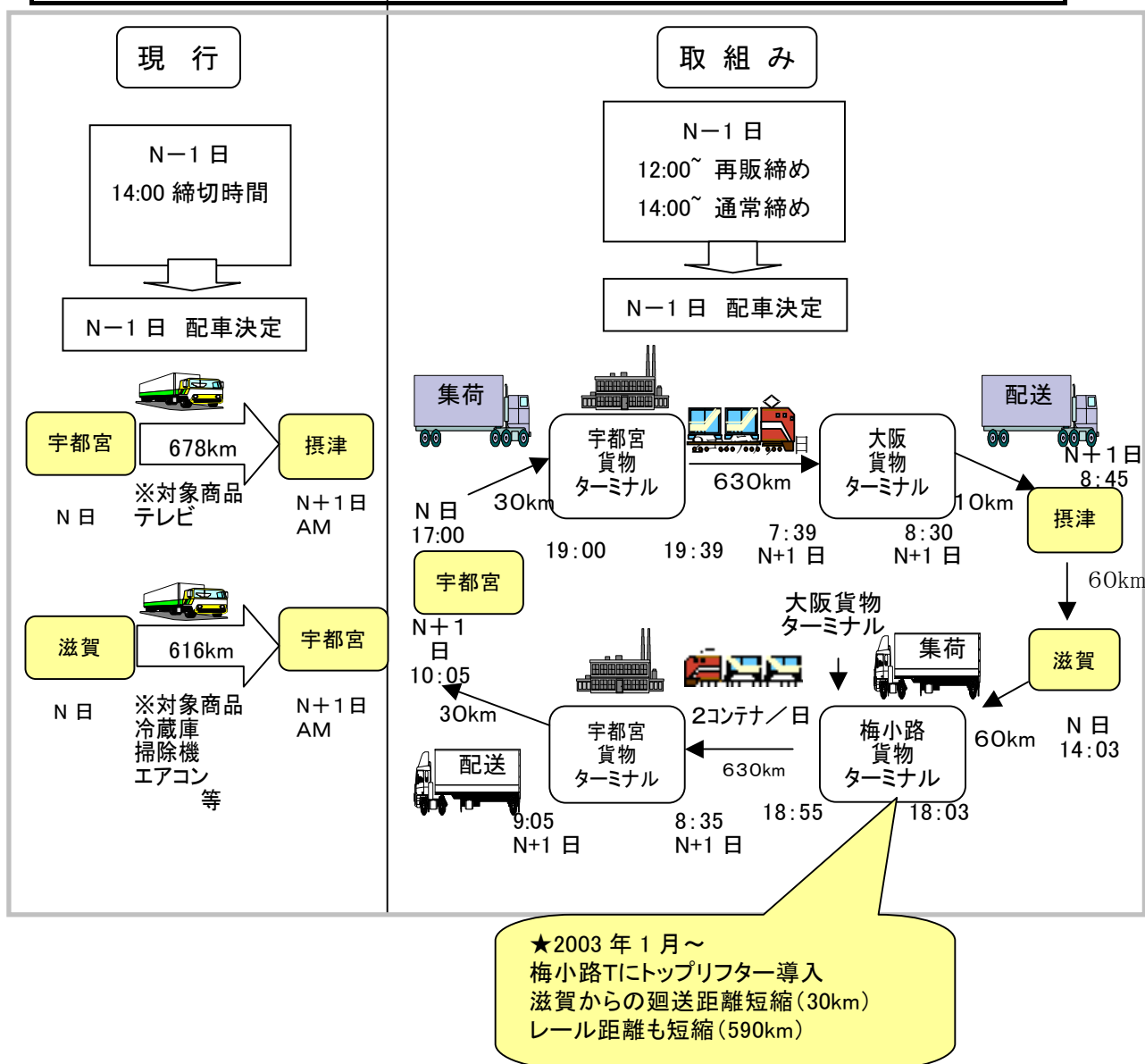
3. 対策効果

項 目	対 策 効 果 (実施前を100とした場合の実施後の数値: 実施後/実施前×100)
輸送コストの対策効果	トラック輸送と同等
所要時間の対策効果	リードタイムを維持
トラック使用台数の対策効果	994台(4トン換算)削減/年
トラック台キロの対策効果	599,416km削減/年
燃料使用量(又はCO ₂ 排出量)の対策効果	12.5%(87.5%削減)

- ・ 年間CO₂削減効果(2003年度):369トン-CO₂
- ・ ECOマークによる自社鉄道コンテナにより「グリーン物流」を訴求

4. 事業内容

モーダルシフト…(事例)鉄道2ルート4コンテナ／往復運行



5. 課題

- ・ 出荷波動により、毎日一定量のコンテナ輸送が困難
- ・ 積込・積降時間の短縮及びパレットの活用
- ・ 専用シャーシーの不足
- ・ また今後、さらに拡大していくには、貨物列車の出線時間の制約に対する庫内出荷作業の抜本的な見直しや台風等の影響による列車運休時の危機回避策(トラック輸送へのターミナルでの切替え等)があげられる。